

シンガポールの社会科教育の特質に関する一考察 —初等社会科シラバスの分析から—

黒田 明雄

倉敷芸術科学大学留学生別科

(2007年10月10日 受理)

1 はじめに

シンガポールは、国際教育到達度評価学会 (IEA) による数学と理科の国際学力調査 TIMSS (2003) で、上位に入り世界の注目を集めている。学力が高く多民族国家であるシンガポールの教育政策、それに伴う教育事象の比較研究をすることは、我が国の教育や学習指導要領の在り方を考える際に手がかりを得ることになる。

本稿の目的は、主に日本の学習指導要領に相当する初等社会科シラバス (Social Studies Syllabus Primary) の分析を通して、シンガポールの社会科教育の特質を考察することである。また、シンガポールの社会科教育の変遷を把握し、実際の授業を参与観察¹⁾した経験も踏まえて考察する。

2 現行教育課程と社会科教育

教育制度は能力別学校系統図 (図1) に示すように能力別に振り分けられる。初等教育では小学校4年の10月に国家試験があり、5・6年のオリエンテーション段階では、その結果を踏まえて、EM1EM2とEM3コースに分かれる。小学校の各学年の学習教科は表1の通りで、我が国のような家庭科、総合学習、特別活動はない。教科の比率は、基礎段階では、英語32%、民族語26%、算数20%、人文・芸術22%で、言語と算数が重視されている。週授業時数 (表2) や5年の時間割事例 (表3) から、教育課程全体 (図2) に占める社会科の位置付けが分かる。教科の多くは連続で行われているが、社会科は連続でなく1単位時間 (30分) で行われている。社会科の週授業時間は、1-3年は1単位時間、4

表1 小学校の各教科

小1	英語 民族語 公民・道徳 数学 社会 美術・工芸 体育 音楽 (保健)
小2	英語 民族語 公民・道徳 数学 社会 美術・工芸 体育 音楽 (保健)
小3	英語 民族語 公民・道徳 数学 社会 美術・工芸 体育 音楽 (保健)
小4	英語 民族語 公民・道徳 数学+理科 社会 美術・工芸 体育 音楽 (保健)
小5・6 EM1/EM2	英語 民族語 公民・道徳 数学 理科 社会 美術・工芸 体育 音楽+保健
小5・6 EM3	基礎英語 基礎民族語 公民・道徳 基礎数学 理科 社会 美術・工芸 体育 音楽 保健

5・6年の所属コースの選択は試験結果を踏まえて親の判断を尊重する。

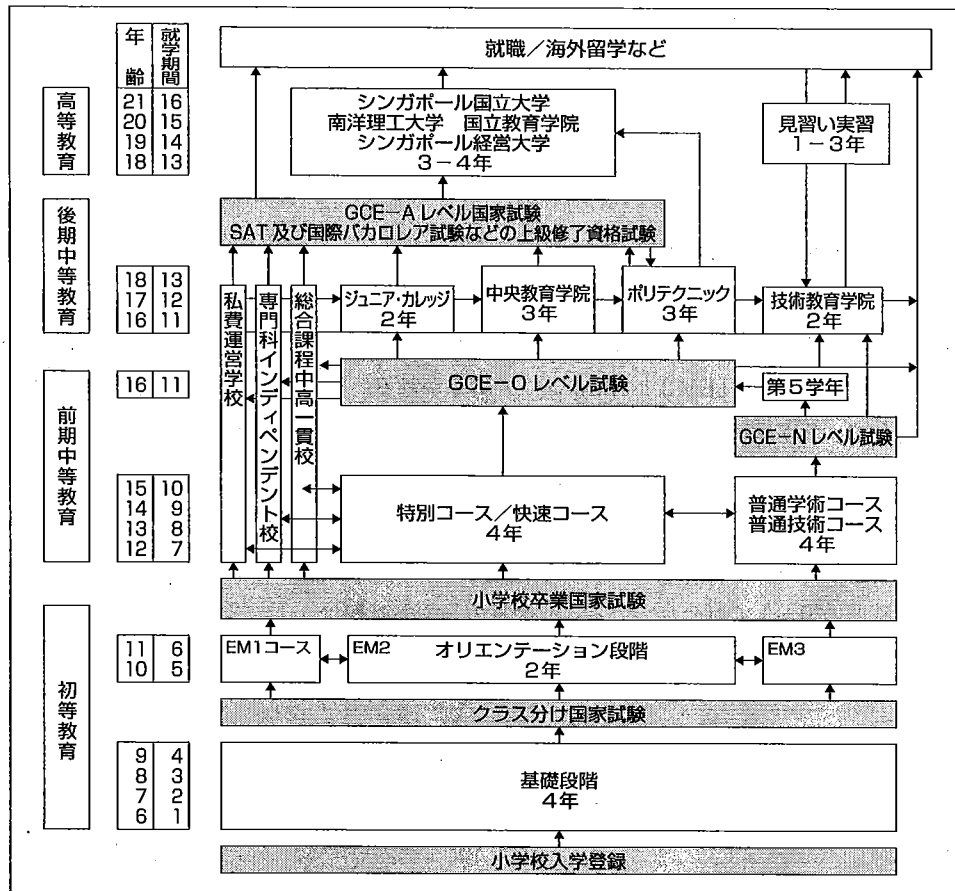
Source: Ministry of Education, Primary School Curriculum, 2007. <http://www.moe.gov.sg/>をもとに作成。

年は2単位時間、5・6年は3単位時間である。それぞれ、週総授業時間の2%、4%、6%を占めるに過ぎない。総授業時数は、我が国に比べるとかなり多く、どの学年もほぼ同数である。また、我が国では低学年で理科・社会科を廃して生活科を実施しているが、シンガポールでは1-3年に社会科を導入している。

表2 小学校の週授業時数

学 年 コ ー ス	1			2			3			4			5・6		
	EM1	EM2	EM3	EM1	EM2	EM3	EM1	EM2	EM3	EM1	EM2	EM3	EM1	EM2	EM3
英 語	17	17	15	13	12	13	16								
民 族 語															
公 民 ・ 道 徳	15	13	12	11	3	3	4								
算 数	7	9	10	11	9	10	13								
理 科			3	4	5	5	3								
社 会	1	1	1	2	3	3	3								
美 術 ・ 工 芸	2	2	2	2	2	2	2								
音 楽	2	2	2	2	1	1	1								
体 育	3	3	3	3	2	2	2								
保 健					1	1	1								
集 会	1	1	1	1	1	1	1								
合 計	48	48	49	49	49	49	49								

1単位時間は30分、45分授業に換算すると週当たり約32時間に相当する。公民・道徳は各民族語で行われる。
Source: Ministry of Education, Report of the Committee on Compulsory Education in Singapore, July 2000 をもとに作成。



参考: 池田充裕「高学力・実力主義 シンガポール」二宮皓編著『世界の学校』学事出版、2006、139頁。
Source: Ministry of Education, Education System, <http://www.moe.gov.sg/>より。

図1 能力別学校系統図

表3 小学校5年EM2の時間割事例(二部制のアフタヌーンスクール)

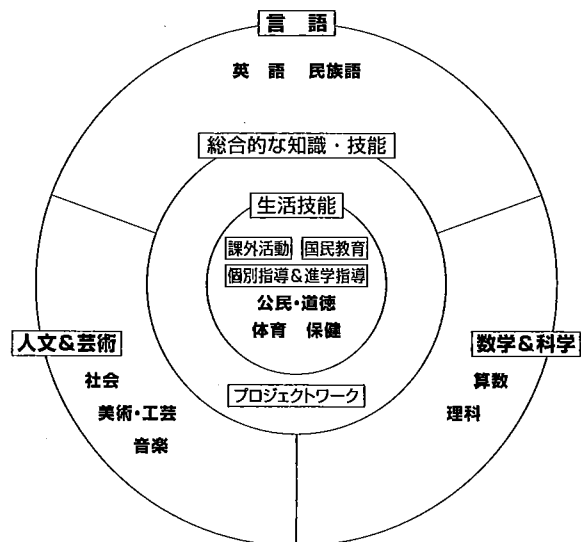
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
時間	1:00-	1:30-	2:00-	2:30-	3:00-	3:30-	4:00-	4:30-	5:00-	5:30-	6:00-
月曜日	算数	算数	英語	英語	休 憩	体育	民族語	民族語	英語	英語	保健
火曜日	算数	算数	英語	英語		社会	民族語	民族語	理解	理科	音楽
水曜日	-	算数	算数	社会		民族語	民族語	民族語	英語	英語	体育
木曜日	算数	算数	英語	英語		民族語	民族語	理解	理解	算数	算数
金曜日	集会	美術・工芸	美術・工芸	英語		英語	英語	理解	社会	民族語	民族語
土曜日	野外活動(4-6年自由参加)										

1単位時間30分授業、二部制が多く午前には2・4・6年、午後には1・3・5年が交代で教室使用。公民・道徳は民族語に含まれる。

出典：福武教育財団「第14回海外教育調査報告書—シンガポール・ブルネイ—」2004、21頁をもとに作成。

3 シンガポールの社会科教育の動向

シンガポールの教育を語る時、1965年独立当時の国家の社会事情を踏まえる必要がある。多民族、宗教と言語の多様性、無資源等々の状況は、国家の生存と存続を左右する要素であり、それは現在も変わらない。リー・クアンユー初代首相(現顧問相)ら人民行動党は、経済発展、人材育成、国民統合、民族間の協調、価値観の共有、国民のアイデンティティ形成という困難な課題の克服を目指し、国家の



3年から理科、1-4年の保健は英語のトピックスの中で行う。プロジェクトワークは時間割の中で実施し、試験科目としない。Source: Ministry of Education, Primary School Curriculum 2007. <http://www.moe.gov.sg/>より。

図2 小学校の教育課程

生き残りをかけた政策を打ち出していった。この国家的課題に応えるために、これまでに大小さまざまな教育改革が実施され、改革は今なお進行中である。『ネクスト・ラップ—2000年のシンガポール—』(1991)や『リー・クアンユー回顧録上・下』(2000)には、政府指導者の国家建設に対して国民に訴えたいことが随所に表われている。

次に、初等社会科教育の動向について述べる。教育課程の中でも社会系教科と道徳は、価値観の形成に密接に関係した科目である。独立当初の教育課程²⁾には、社会という教科はないが、3-6年に地理と歴史の時間がある。中学校1・2年にも地理と歴史の時間はあり、現在も行われている。1974年には、小学校の公民、地理、歴史は生活教育にま

められ、1・2年で公民、3-6年で地理・歴史を民族語により教授している。³⁾ 1979年の「ゴー・レポート」と呼ばれる教育改革報告書は、従来の単線型二言語教育制度の問題点として、言語能力を効率よく引き出していないことを指摘した。この調査結果を踏まえて、1980年から大規模な教育改革が行われ、世界から注目を浴びる複線型教育制度が導入された。この教育改革にあたり、日本や台湾、フランス、イギリスの教育が参考にされている。⁴⁾

この複線型教育制度導入による一連の改革に伴い教育課程に社会科が初めて名を連ね、1984年に小学校に社会という教科が正式に導入された。しかし、4年から6年までの導入であり(小学校教育課程⁵⁾ P4N/P4E to P6N/P8E)、1年から3年には導入されていなかった。また、複線型教育制度の6年制二言語コースと8年制二言語コースには導入されたが、8年制一言語コースすなわち言語能力の低いコースには導入されていない。それは産業界の要望と言語の習得に配慮した教育課程の編成であり、言語能力の低い児童には、優先すべき教科に時間が費やされることになっていた。

完全実施に至るまでに試行期間を要しており、英語版教科書や中国語版教科書による試験的導入プログラムが実施された。1984年度の4年から順次新しい教科書で教えられていることが分かる。次に、教科書⁶⁾の記載事項をもとに学習内容や社会科の目標などについて述べる。

学習内容は、歴史学と地理学に基礎的な経済学と社会学の内容を統合したものであり、社会諸科学の成果との関連を明示している。そして教育課程開発研究所の社会科プロジェクトチームが教授学習のための教材開発を担当している。プロジェクトチームによって、コース別教科書、練習問題集(ACTIVITY BOOK)、指導方法や学習活動など記した教師用指導書、図表やスライドなどの補助教材が作成されている。教科書の発行年度を見ると再版されて使用されていることが分かる。

また、1995年にシラバスの改訂が行われた。その背景は急速な技術発展や都市化による社会変化に伴って、環境や伝統文化の学習が重視されたことであった。1996年版教科書に示された目標は、1984年版教科書の文言と同様で、「社会科の目標は、児童が生活している社会や環境により積極的に参加できるように、社会的な環境の理解や知識、技能、態度の習得を目指すことである。」⁷⁾と述べられている。経済発展を果たしても、なお国づくりへの市民参加を求め、国家の生存・存続を優先する考え方が反映されている。

1999年にさらなる社会科シラバスの改訂が行われた。4-6年への社会科の導入から約20年を経て、1-3年を含めて小学校全学年で社会科を教えることになった。2000年から実施されている社会科は、2000年に1年と4年、2001年に2年と5年、2002年に3年と6年、というように段階的に導入された。

その上さらに2003年の改訂によりシラバスの中身の充実が図られた。導入期間を経て2006年から完全実施の運びとなっている。

この社会科シラバスの改訂と並行して、2003年から小学校の義務教育制度が施行されていることを見落とせない。この背景には、シンガポール国籍住民の少子化と外国籍住民の急増がもたらす影響が考えられる。外国籍児童の教育問題もある。数と質を含む人口問題は、経済発展、国民のアイデンティティ喪失とリンクし、総人口約400万人程度の多民族国家の基盤を揺るがす由々しき問題なのである。早期から異なる文化的背景をもつ児童に、国家の過去と現在、未来について学ばせ、価値観の共有に一翼を担うのは社会科である。アイデンティティ喪失の危険性に対して、国民教育(1997年～)の中でも、社会、地理、歴史、公民・道徳などの教科との連携の重要性が指摘されている。初等社会科シラバスの改訂は、グローバル化の進行で起こる影響への教育的対応のひとつととらえることができる。

4 改訂社会科シラバス(1999)の概要

前述したように、この改訂社会科シラバス⁸⁾は2000年から実施されている。以下に、このシラバスの記載事項をもとに社会科への期待、社会科の目標、各学年の学習内容、評価について述べる。

社会科シラバスは学習指導要領に該当する。自国シンガポールや世界を理解させ、社会環境に貢献する人材を養成すること、また経済がグローバル化する中で、よく考える人間、生涯学習者、情報時代に知識や技能を備えた人間を育てる必要性が述べられている。

社会科の内容は、歴史学と地理学に基礎的な経済学と社会学を統合したものである。この教科には、早期から国家やコミュニティへの所属感を植えつけ、公平感を養い、社会的な結束を培う役割を期待している。明確な意図の下に、社会科シラバスが編集されることが分かる。

また、1997年に導入された国民教育のほか、物語法(Narrative Approach)、思考技能、情報技能についても述べられている。国民教育は、国民へ国家の生き残り意識を植えつけ、国家のことを考え、責任ある行動のとれる人間の育成を目指すものである。物語法は、シンガポールで起きた主要な歴史事象を適当な場面で話して聞かせ、国の変化について観察する力を養おうとするものである。思考技能は、情報収集、問題の分析、解決策を見出す方法を学ぶだけでなく、学習者自身が思考過程に気付くことや批判的創造的思考力を養うことを含んでいる。情報技能は、家庭でも職場でもコンピュータを使用することが増えている状況で、情報を有効に活用するためにコンピュータ操作に精通する必要性を求めている。これら4つの教育課題は、社会科の目標や内容に反映されている。

1) 社会科の目標

上記のような国家の意向の下に、知識、技能、価値目標を掲げているが、総括目標や各学年の目標までは明示されていない。我が国の理解、能力、態度目標に対応するのが、知識、技能、価値目標である。

知識目標

- ・ シンガポールの歴史、地理、経済の活動についての知識を習得する
- ・ シンガポールが直面する社会的課題、数々の挑戦や制約を理解する
- ・ 歴史、地理、経済の基礎的概念と一般社会通念を理解する
- ・ シンガポールと近隣国家や諸外国の関係に関する知識を習得する

技能目標

- ・ 情報を効果的かつ創造的に収集し、整理し、発表する
- ・ 合理的な意思決定をしたり、適切な判断をしたりして問題を解決する
- ・ グループの他の人々と協力する
- ・ ITのリソースを有効に活用する
- ・ 継続的な学習習慣を習得する

態度・価値目標

- ・ シンガポールのさまざまなコミュニティの習慣や伝統を尊重する
- ・ 国家生き残りへの国民的意識と国家の未来へ対する信頼感の育成をする
- ・ 国家への関心やシンガポール人としての自覚を高める
- ・ 人間同士、国家間関係において協力と相互依存の必要性を理解する
- ・ 公平な態度、適応力、寛容な態度を育成する

目標記述が明確であることが指摘できる。態度・価値目標は、児童にとどまらず国民全体へのメッセージとして受け取れる。社会科は内容教科であり、学習内容の質は知識目標に表れる。「歴史、地理、経済の基礎的概念と一般社会通念」が何を意味しているのか、この改訂シラバスには記載されていない。技能目標に合理的意思決定力を掲げているが、限られた時間での育成には工夫が必要である。

2) 各学年の学習内容

各学年の学習内容(表4)には、基本的に同心円の拡大の原理が採用されている。全学年での社会科必修化に伴い、これまで4年で学習していた内容が、1-3年に下りて再編集されていることが分かる。各学年の各単元で、社会諸科学の知識を習得させる構想になっている。シンガポールの地理や歴史を学び、国家建設に参加する態度を形成しようとしていることが学習内容からうかがえる。早期から社会の形成者を育てようとする意図が「シンガポール人のアイデンティティの形成」「必要な団結」などの文言に表われている。国づくりや地域づくりに参加する態度形成が強く求められていると言える。

3) 評価

小学校では、1年間を通して社会科の成果を評価する必要は述べているが、試験を課さない教科となっている。公式な評価には、ワークシート、練習問題集(ACTIVITY BOOK)によるものなどがあり、活動を伴う非公式な評価には、クイズ、ゲーム、ロールプレイ、ショー&テル、チェックリストなどがある。一般的には筆記試験による評価が重

表4 各学年の学習内容

学年	単元	単元名	学習内容	週授業数
1	単元1	私たちの学校	学校の人 学校の施設 学校行事の特別な日	1
2	単元2	私たちの身の回り	近所の人 近所の施設と土地利用	1
3	単元3	私たちの社会：多民族人口集団の形成	多民族社会の人々 多民族社会の施設	1
4	単元4	私たちの国：自然環境 私たちの遺産	世界の地理 シンガポールの位置と大きさ 自然環境 第二次世界大戦中のシンガポール 戦後の生活	2
	単元5	私たちの国：外国の支配下の生活		
5	単元6	私たちの国：独立への歩み	自治政府へのシンガポールの苦難 独立国家の誕生 シンガポール人のアイデンティティの形成 必要な団結	3
	単元7	私たちの国：私たちの国家の建設		
6	単元8	私たちの国：変化と進歩	国家の成長 シンガポールと南アジアの国々 シンガポールと世界の国々—概観—	3
	単元9	他の国々との関係		

Source : Ministry of Education, Social Studies Syllabus Primary 1999, Singapore, p 7-11. <http://www.moe.gov.sg/>

視されるが、クイズなどの活動は楽しさをもたらす。楽しく学びながら民族や土地について理解することによって、国家への肯定的な感情や態度を養うことができる。具体的な評価については言及されていないが、中学校の地理や歴史には、学期末に筆記試験が課せられており、評価方法は明記されている。

5 現行社会科シラバス (2003) の概要

1999年改訂社会科シラバスは、数年の期間を経て改善され、2003年の改訂社会科シラバス⁹⁾に至っている。このシラバスは2006年から実施されている。

1年から歴史学、地理学、経済学、社会学の基礎的知識が組み込まれている。また、国民教育、思考技術、情報技術、金融の知識に関する学習内容も含まれている。「少なく教えて多く学ぶ (Teach Less, Learn More)」の考え方の下で、教師は新しい教授方法を用いることで時間や場所の制約から解放される、としている。1999年のシラバスに比べて詳細になり充実している。記載事項をもとに、社会科の目標・教授方法・評価や各学年の学習内容・目標について述べる。

1) 社会科の目標・教授方法・評価

①社会科の総括目標及び知識、技能、態度・価値目標

- ・適切な判断をするために知識、技能、態度・価値観を備えた児童の育成をする
- ・多文化社会や相互依存の世界の中で、チームの一員として連絡を取り合い働く児童の育成をする

前回の改訂では示されなかった総括目標が明記された。我が国の社会科の目標は幅広い解釈が可能であるが、シンガポールの場合は明確な目標記述となっている。政府の期待する人間像の焼き移しとも言える。前回の知識、技能、態度・価値目標は、改訂されて以下のように表わされている。

知識目標

- ・土地と人間の関係、人間と土地、環境の関係を理解する
- ・過去の社会事象、社会事象の変化、これからの発展に関する知識を習得する
- ・資源・資産利用についての適切な選択の重要性を理解する
- ・多文化の世界を尊重する

技能目標

- ・さまざまな資料による情報や考えを利用し、その価値を見極める力を習得する
- ・発表、視覚的または記述的方法で明確に情報と考えを表現する
- ・いろいろなグループ組織で協力的に学習をする
- ・意思決定の技術を習得する

態度・価値目標

- ・自分たちの文化と他の民族の文化に対する肯定的態度と尊重する態度を育成する
- ・環境に対して責任をもつ意識を育成する
- ・生涯学習に対して積極的な態度を育成する
- ・国家への帰属意識を養う

これらの目標は、さらに明確ですっきりした形にリニューアルされている。知識目標には社会諸科学の視点が組み込まれ、態度・価値目標には、シンガポールの未来を託す期待される人間像が組み込まれている。国民統合の視点は、技能目標の「組織で協力的に」という文言にも具体化されている。

②教授方法

新たに教授方法に関する解説が記載された。児童中心の学習は、児童に意欲を起こさせ、自発的自立的な学習者にさせると述べ、さらに詳しく指導方法に言及している。物語法 (storyline method)、歴史を語る方法 (oral history)、実生活の事例を取り上げること、さらに、参加型の体験学習として、討論、シュミレーション、ロール・プレイ、ディベートの活用を示唆している。社会見学の実施の可能性に触れ、文化遺産の見学や学習旅行は社会見学に相当するとしている。写真、新聞記事、CD-ROM、デジタルメディア、画像、インターネット、ビデオ番組などの授業に活用できる教材教具を挙げている。これらの活用により学習効果を上げることが期待されている。

③評価

初等社会科においては、無試験教科の扱いを続けるが、知識、技能、態度・価値の習得状況を把握するために評価は必要としている。公式な評価方法には、ワークシートや練習

問題集 (ACTIVITY BOOK) のような筆記によるものがある。一方、非公式な評価方法には、ロール・プレイ、ディベート、インタビュー、日記、ショー＆テルのようなものがある。3-6年までの児童には、自己評価や級友同士の評価を実施し、自分の学習に責任をもたせ、意欲を高めることに言及している。少し踏み込んだ表現はみられるが、前回の改訂と同様に学年や単元レベルでの具体的な評価については記載されていない。

2) 各学年の学習内容と目標

各学年の学習内容 (表5) をみると、身近なテーマからだんだん離れたテーマを学ぶように同心円の拡大の原理が採用されている。2003年改訂社会科シラバスは、就学前教育から初等教育までの発達段階を考慮して編成されている。

ここでは、全学年を代表して、1年の学習内容 (表6) と知識、技能、態度・価値目標 (表7) を挙げるが、各学年に同様なものも提示されている。1年の単元「私たちの学校」の場合、取り扱う概念や知識目標の4つ

表5 各学年の学習内容

学年	単元	学習内容
1	単元1	私たちの学校
2	単元2	私たちの身の回り
3	単元3	私たちに必要なもの
4	単元4・5	私たちのはじまり 私たちの遺産
5	単元6・7	外国の支配下でのシンガポール 国家の建設
6	単元7・8	私たちの発展 南アジアと世界との関係

Source: Ministry of Education, Social Studies Syllabus Primary 2003, Singapore, p6. <http://www.moe.gov.sg/>

の視点には、地理学、歴史学、経済学、社会学の基礎的な概念が組み込まれている。各学年の各学習内容に社会諸科学の概念が配列されていて、効率的に習得できるよう考えられている。ただ、単元数を抑え、学習内容を精選せざるを得ないのは、社会科の絶対的な授業時数の少なさからである。

表6 第1学年の学習内容

小1 私たちの学校	テーマ	学習内容	取り扱う概念
	学校の人々	クラスや学校の友だち/学校で働く人	貢献 協力 コミュニティ
	学校の施設	学級/キャンティーン/ホール/運動場/職員室/特別教室	場所 空間利用 必要と要求
	学校行事の特別な日	NE記念日/スポーツの日/先生の日/子供の日/発表と表彰の日	祝賀 学校の誇り

Source: Ministry of Education, Social Studies Syllabus Primary 2003, Singapore, p8. <http://www.moe.gov.sg/>

ここでは、1年の学習内容と知識、技能、態度・価値目標のみを掲載したが、1-6年までにどこでどんな知識を習得するか明確に位置付けられている。また、知識目標と技能目標の各4視点は、各学年に共通するもので、学年が上がるとともに高度な概念や技能が習得できるように螺旋型アプローチの方式がとられている。

知識目標の社会諸科学の概念は、What・How・Whyの問いに答える知識である。社会

表7 第1学年の知識、技能、態度・価値目標

目標	4つの視点	具体的目標
知識目標	人間・土地・環境	学校の役割を理解し学校で働く人の役割や責任を説明する
	時間・変化・連続	学校の昔や今の学校について理解する
	欠乏・選択・資源	資源の不足はさまざまな選択をもたらすことを理解する
	アイデンティティ・文化・コミュニティ	学校で特別な日を祝うことの意味を理解する
技能目標	作業	写真、図表、地図などの視覚教材を活用する
	コミュニケーション	観察や体験を踏まえた知識を発表する
	参加	グループで協力的に学習をする
	批判的創造的思考	共通点や相違点を話し合うために比較する
態度・価値		自己責任や学校のものに注意を払う
		学校への所属感、誇り、忠誠心を養う

Source : Ministry of Education, Social Studies Syllabus Primary 2003, Singapore, pp8-9.
<http://www.moe.gov.sg/>

科授業を観察して感じたことは、1単位時間が30分と短く、時間的な制約があり、発問から答えまでの時間が短いことであった。判断型の授業やなぜ型の探究的な授業を展開するためには、連続授業を設けるなどの工夫が必要であろう。

シンガポールの社会科教育を考察するにあたっては、シラバスのみを検討するだけでは不十分であり、IT教育（Master plan for IT in Education 1997～）やプロジェクトワーク（Project Work : PW 2000～）との関連を踏まえた上で、実際の授業と比較しなければ実態は見えてこない。現在では総合学習のようなPWも行われている。また、『ネクスト・ラップ—2000年のシンガポール—』（1991）で、二部制から全日制への移行を掲げた課題を、2014年までに転換する方針を示している。実現すれば、教育課程にゆとりができて、さらなるシラバスの改訂が行われると考えられる。

6 おわりに

本稿では、主に初等社会科シラバスの分析を通して、シンガポールの社会科教育の特質について考察した。現行の初等社会科教育の特質は、以下のようにまとめられる。

- ・ 国家の生存・存続、国民統合の理念、国民教育の意図が社会科の目標や内容に反映されている。特に態度・価値目標には国家が期待する人間像が顕著に表われている。社会科と公民・道徳の関連は強い。
- ・ 教育課程に占める社会科の授業時数は少なく、それに伴い精選された学習内容になっている。
- ・ 各学年の学習内容の配列は基本的には同心円的拡大の原理に基づいている。
- ・ 総括目標の下に知識、技能、態度・価値目標を置き、各学年に知識、技能、態度・価値目標を配置する3段階の目標スタイルになっている。それぞれが具体的で明瞭な目標記述になっている。

・各学年の知識目標に社会諸科学の概念を配列し、段階的に習得できるようにしている。知識や技能目標が明瞭であること、社会諸科学の成果を活用していることは、我が国の学習指導要領を考える際の参考になる。現在、初等社会科は国家試験の教科になっていないが、今後、どのような位置付けになるのか見守っていきたい。また、初等社会科教育（社会）と中等社会科教育（地理・歴史）における社会諸科学の概念の系統性について把握する課題が残されている。

注及び引用文献

- 1) 1997, 7-8 の約 1 ヶ月間、二部制のテマセク小学校の教育調査及び最近の教育情報を踏まえて述べる。
- 2) 陳炳武『新加坡教育（中国語版）』教育出版、1970、21頁23頁。
- 3) 池田光裕「道徳・特別活動カリキュラムの改善に関する研究」国立教育政策研究所、2004、42頁に詳述。
- 4) Goh Keng Swee and The Education Study Team : Report on The Ministry of Education 1978, Singapore, 1979, Annex 3 E等。
- 5) Ibid, Annex 6 E.
- 6) Curriculum Development Institute of Singapore : Social Studies for Primary Schools P4N/P4E, 1883 の前書き、後書き。
- 7) Curriculum Development Institute of Singapore : Social Studies for Primary 4A Schools Second Edition, 1994の前書き。
- 8) Ministry of Education : Social studies syllabus primary 1999. Year of implementation from 2000. <http://www.moe.gov.sg/>
- 9) Ministry of Education : Social studies syllabus primary 2003. Year of implementation from 2006. <http://www.moe.gov.sg/>

参考文献

- ・シンガポール政府『ネクスト・ラップ -2000年のシンガポール-』日本語版、1991。内容は政府指導者の国民へのメッセージ。
- ・Lew Kuan Yew/小牧利寿訳『THE SINGAPORE STORY Memories of Lew Kuan Yew I/リー・クワンユー回顧録（上）』『THE SINGAPORE STORY Memories of Lew Kuan Yew II/リー・クワンユー回顧録（下）』日本経済新聞社、2000。
- ・斉藤里美編著『シンガポールの教育と教科書-多民族国家の学力政策-』明石書店、2002、10-75頁。
- ・池田光裕「シンガポールにおける就学前教育の動向と教育実践」科研費研究成果報告書『タイ・マレーシア・シンガポールにおける就学前教育の実態に関する実証的比較研究』2004、77-116頁。
- ・井田仁康「シンガポール」研究成果報告書『社会科系教科のカリキュラムの改善に関する研究-諸外国の動向（2）-』国立教育政策研究所、2004、131-147頁。
- ・池田光裕「シンガポールの環境教育の動向と教育実践」科研費研究成果報告書『東南アジアにおける環境教育の実態に関する実証的比較研究』2006、65-95頁。
- ・Ministry of Education : Social studies syllabus Lower Secondary NT Course. Year of implementation from 2005.
- ・Ministry of Education : Geography syllabus Lower Secondary S/E/NA Course. Year of implementation from 2006.
- ・Ministry of Education : History syllabus Lower Secondary S/E/NA Course. Year of implementation from 2006.

A Study of the Characteristics
of Primary Social Studies Education in Singapore
– By Analyzing “Social Studies Syllabus Primary” –

Akio KURODA

Course in Japanese Studies for Students from Overseas
Kurashiki University of Science and the Arts,
2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan
(Received October 10, 2007)

The purpose of this essay is to examine the characteristics of primary level social studies education in Singapore by analyzing the “Social Studies Syllabus Primary 2003”.

The results are as follows:

The idea of a nation: its existence and continuation; national integration; and national education, all reflect the aims and contents of Singapore’s primary level social studies syllabus.

Compared with Japan, the learning contents are limited because Singapore has fewer lessons in social studies.

The sequence of the topics in the syllabus is based on the expanding environment approach. Such an approach allows pupils to first look at topics that are familiar and gradually proceed to topics that are less familiar.

The syllabus concretely describes the following: blanket aims, knowledge objectives, skills objectives, attitudes and values objectives.

Concepts from the social sciences are incorporated into knowledge objectives. They allow pupils to learn step by step.

The results from the social sciences are used effectively in each objective. And the descriptions of each objective are very clear and concrete. These are commendable things that are highly suggestive for social studies education in Japan.